

平成30年度 江戸川区立清新ふたば小学校 学校関係者評価報告書(学校経営計画・学校関係者評価シート)

学校教育目標	新たな創造 地域とともに歩む学校づくり 共育・共創・協働 プロジェクト三年次 未来にはばたけ！ 清新ふたばの子ども	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○ひとりひとりの豊かな「育ち」と確かな「学び」を目指す学校づくり 地域とともに歩む学校づくり ○しなやかな子ども おだやか子ども すこやかな子ども ○計画する力、指導力を向上する熱意や使命感をもち、組織の一員として自分を高めている
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○統合新校として三年目。地域や保護者と意見交換を積み重ねながら学校づくりを行ったことで、地域や保護者の皆様に「清新ふたば小」のよさを伝えることができ、支援者や理解者が増えた。 ○子どもたちにとっても「楽しい学校」「明日が待ち遠しい学校」になってきている。(学校評価から) <課題>全校児童が知識→知恵→行動できる子どもたちとして育てること。平均年齢35才の教師集団をOJTを重ねながら組織的に育成し、授業力向上を図っていくこと。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	評価指標・評価基準		自己評価			学校関係者評価		次年度に向けた改善策
			取組指標	成果指標	取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の推進	「読書科」の推進	「読書科指針」に基づく授業の実施 学校図書館等の整備・活用・改善	「読書科指針」に基づく授業づくり・環境整備	年間指導計画の作成 全学級が35時間以上の授業	A	A	○「読書科指針」に基づく年間指導計画及び授業の展開・読書環境の充実 ★授業改善及び教頭等への関連	A	教育課題実践推進校「読書科」の授業において、子どもたちの授業への意欲や学び方を学ぶ姿勢がとてよかった。 新学習指導要領を先取りした授業展開がよかった	○「読書科」で培った学び方を学ぶ姿勢、探究して力を各教科・領域、日常の生活に活用できる仕組みをつくっていく。
	オリパラ教育の推進	オリ・パラ教育レガシー創造プランに基づく取り組みの充実	パラリンピックについての理解・啓発	全学級35時間の授業の展開	A	A	○体験を通して学んだパラリンピックについての理解・啓発 ★継続した学校全体でのオリパラ教育	A	パラリンピックを学習することにより、共生社会への認識が子どもたちが感じ取っていることが素晴らしいと感じた。様々な体験を通して授業をつくっていくことが素晴らしいと感じた。	今年度の成果と課題を踏まえて、オリパラ教育にとどまることなく、生き方について考えることができる授業をつくっていく。
	小中連携教育の推進	「小中連携構想」「各教科等の連携プログラム」による連携の推進	清臨地区小中での情報の共有・連携プログラムの再構築	清臨地区小中授業参観・意見交換会を年8回開催	A	B	○意見交換・授業参観の実施によって小学校で身につけなければならない事項の再確認 ★具体的な内容を踏まえたプログラムの再構築	A	地域での意見交換会もあり、各学校の状況も把握できている。以前より、小中連携が充実してきている。	小中連携が子どもたちにとって、安心と期待感ももてるような、具体的な教育活動につなげていく。
教員の資質向上	今日の教育課題への対応	「特別な教科 道徳」「外国語活動・外国語」への対応	次期学習指導要領への対応	年間指導計画の作成 指導と評価についての検討	A	B	○年間指導計画の作成を行うことにより、授業計画も具体化することができた。 ★更なる検討が必須である。	A	グローバル化している学校の状況もある。そのことを踏まえ、さらなる充実を期待している。	低・中・高学年の取組が、現在の子どもたちの状況に対応できる生きた授業になっていけるよう、再検討をしていく。
	ICTを活用した授業の推進	ICTを活用した表現力の育成	「読書科」を核としたICT機器を活用したプレゼンテーション能力の育成	高学年プレゼンテーションソフトを活用した活動・教員によるICT機器を活用した授業	A	B	○児童の活用能力が向上した。保護者や他校の教員から成果につながる意見をいただくことができた。 ★教員による活用力の向上	A	研究発表、授業参観におけるICTの活用についてよくできている。積極的に関わり姿勢が見られた。	今年度の成果と課題を踏まえ、日常の授業のなかで今以上に積極的に活用できるようにしていく。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	補習の実施等による、きめの細かい指導の徹底	児童一人一人の学習状況に即した学習指導の充実	年間補習 50回以上 夏季休業中 5日以上	A	B	○学年で対応することにより、よりよい補習を実施できた学年があった。国・都の学力調査結果 国・都を上回ることもできた。 ★一人一人の学習状況に応じた授業の工夫	A	子どもたちにとって確実に力をつけていっていることについては、学ぶ教師集団ができているのではないかと考える。	子どもたちが学びに対して自信をもち、授業に向かい意欲と期待感を持つ授業の工夫を学校全体で取り組んでいく。特に、話し合いや探究する授業をつくっていく。
	確かな学力の向上	ベーシック等を活用した国語、算数(数学)	ベーシック診断シート年2回	正答率・達成率が過半数が70%以上	A	A	○繰り返し行い、習熟を徹底することができた。 ●診断の分析をし、来年度の補習に活用を図る。	A	着実に取り組んでいる姿が見える。今後さらなる期待をしている。	基礎基本の定着はとても重要である。繰り返しで学んだことが自信につながるようにしていく。
	体力の向上	休み時間や体育の授業における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	全児童が、中休みは外遊び 児童集会(運動)の充実	全児童の90%の外遊び、「わんぱくタイム」年間35回の実施	A	A	○90%以上の児の外遊びの実現 ★「わんぱくタイム」の内容の充実	A	地道に取り組んでいる様子が見える。今後さらなる期待を込めて、頼もしく思う。	縦割り班活動において「わんぱくタイム」を行っていく、さらなる充実を図る。
相談体制健全育成の充実	いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	学期ごとに児童アンケートSC・保護者との迅速な連携	不登校児童の減少 いじめの未然防止	A	B	○いじめを絶対許さないという全校での徹底した指導により未然に防止に努めた。 ★いじめゼロ、不登校児童の減少	A	いじめゼロに向けて、今後も果敢に取り組んでいくことを期待する。小さなことを見逃さないという姿勢が見られる。	いじめやいじめゼロを意欲し、早期発見・早期対応を学校全体で緊張感をもって進めていく。
特別支援教育の推進	インクルーシブ教育の推進	特別支援教育の理解啓発と授業における工夫	通級指導学級との連携を深め、相手を意識し思いやりの気持ちをもつ子供の育成	個別指導計画・支援シート100% 特別支援教育への理解(研修会の実施)	B	B	○校内支援委員会にて連携が図れた。 ★環境整備・連携・指導内容の充実	B	前向きに進んでいる姿勢が見られた。今後を期待する。	心の不安をとりぞき、どの子どもも安心して学校生活を送れるよう、様々な工夫を今まで以上に取り組んでいく。
	巡回指導の充実	今年度から開始する7巡回指導の内容と方法	円滑に運営できるためのPDCACA	児童一人一人のニーズに応じた適切な指導による学ぶ意欲の向上	A	B	○計画的に運営ができた。 ★今年度の成果と課題を踏まえさらなる充実	A	今年度初めての、取り組みである巡回指導について、丁寧に取り組んでいる様子が見られた。	巡回指導における成果と課題を踏まえ、指導内容のさらなる充実を図る。

